

学校評議員会記録

開催日時	令和3年（2021年）11月30日（水） 10時00分～11時10分	
会 場	校長室	
出席者数	学校評議員5名中3名 (所用のため2名欠席、1名オンライン参加)	学校 校長、副校長、教頭、事務長
次第および校長が意見を求めた事項		
1 開 会		
2 校長挨拶		
3 報 告		
(1) 1、2学期の学校行事等の報告		
	1、2学期に行われた学習活動について説明した。4月には入学式が行われ、小学部13名、中学部22名、高等部は23名、訪問学級は小学部、高等部ともに各2名が入学した。帯広厚生病院に入院している児童も6月に入学式を行う形をとることができ、保護者も大変喜んでおられた。 小学部運動会は6月に開催した。今年は新型コロナウイルス感染拡大のため規模を縮小し、学年ブロックを入れ替えた形で開催した。また、学校経営方針に基づき実施できる方法をしっかり考えた中で進めていく方向性をもって行うことができた。保護者にも御協力をいただき、当日は新型コロナウイルス感染防止対策を講じて行うことができた。 中学部体育祭は6月に、日頃の体育授業の成果を発表する形で実施した。車いすやバギーの生徒が多いため体育館で行い、生徒の実態に応じた形で進めた。小学部運動会同様、保護者に御協力をいただき、学年入替で行った。 小学部の見学旅行は、緊急事態宣言に伴い9月から11月に変更して旭川方面に行き実施した。中学部の見学旅行は、当初予定していた札幌方面から登別方面に行き先を変更して実施した。日頃の学習で積み重ねたことを生かして取り組んだ小遣い帳の整理の様子を写真で紹介した。高等部の見学旅行も、当初予定していた東京方面から登別・苫小牧方面に変更して10月に実施した。旅行業者と協議を重ね、保護者と連絡を取り合いながら進めることができ 生徒は大変喜んでいった。 小学部の遠足は、コロナ禍の中であっても実施できる方法を検討し、時期を1学期から秋季に変更し近所の公園へ出向いて実施した。 交流学习について今年度小学部では実施できていないが、これまであけぼの保育園や帯広西小学校との交流を行っており、地域との交流ということも含めて児童にとっても非常に大きな意味を成す大きな要素があると捉えている。中学部では、8月と11月に帯広第二中学校1年生と交流学习を行った。学級ごとに分かれて一緒に活動した。高等部では、今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため中止となったが、例年幕別清陵高校の生徒と交流しており、来年度は進めたいと考えている。 小学部の演劇鑑賞では、日産労連様のご厚意により、人形劇「さるかに合戦」を鑑賞すること	

ができた。児童は大変喜び、その後学習発表会のモチーフとして取り上げ意欲的に学習を進めた。生活単元学習では、帯広柏葉高校、芽室高校のALTがそれぞれ来校し、授業を進めていただいた。生徒はとても喜び、英語の挨拶もスムーズにできるようになった。

小学部学習発表会では、昔話「さるかに合戦」やオリンピック、旅を題材に演目が構成され、音楽、体育授業など日常の学習の成果を発表することができた。当日は、学年・ブロックごとに入替のご協力をいただき、保護者の方にも観ていただくことができた。

中学部の学習発表会では、2学年でYouTubeをモチーフに物語が展開され、ボッチャやダンスなど生徒の得意なことや様々な学習で経験したことを取り入れて発表することができた。

高等部3学年では、卒業後の就労を踏まえ9月から現場実習を行った。コロナ禍ではあったが、本人、保護者、事業所、学校の同意の下で実習を進めることができた。

総合的な学習の時間の取組として、中学部では事前にチラシを配布して回収を呼びかけ、プラタブ回収を行った。町内会の方々にご協力をいただいていることが大変有り難い。地域や社会に貢献することを体感できる素晴らしい学習である。今後も地域の方の力をお借りしながら進めて参りたい。

最後に、後援会事業では屋外にあるビニールハウスを活用して授業ができるよう、整備を進めるために資材の提供などで御支援をいただいた。砂利や中札内高等養護学校の生徒が作ったコンクリート平板を使用し、作業学習の授業で教員と生徒が整備を進めることができた。

4 説明事項

(1) 学校評価（教職員自己評価）の集計結果について

数値が0.1ポイント上がった項目は次のとおりである。

項目5の学習指導要領や年間指導計画に基づいて小、中、高の系統性がある教育課程が編成されている箇所、項目11の児童生徒の人権を尊重し言葉遣いや体罰を意識した教育を行っている箇所、項目18の児童生徒が健康に過ごすために食育・健康教育に取り組んでいる箇所、項目19の児童生徒を自然災害から守るために安全教育や施設設備の安全点検に取り組んでいる箇所、項目20の授業研究や校内研修など、授業力や専門性の向上を図る研修が充実している箇所、項目21の校内研究はテーマや課題を共有しながら計画的かつ組織的に取り組んでいる箇所、以上の5点である。特に5、20、21は、新学習指導要領の改訂の重点である「社会に開かれた教育」「主体的、対話的で深い学び」「育成を目指す資質・能力」「カリキュラムマネジメント」の4点に関わる項目となり、研修をとおして、理解が進んでいることを表している数値であると考える。

自由記述では、学校運営面で働き方改革や業務の効率化、業務推進などが挙げられた。教育課程に関しては、コロナ禍での学習活動や教育課程の改善・充実やリモート学習などについて挙げられた。学習指導については、研究・研修の充実や休んだ教員の補欠体制などが挙げられた。生徒指導については、グランドデザインの中でも重視している人権尊重や生徒理解に関する内容が挙げられた。保護者・関係機関と連携では、情報発信の在り方について挙げられていた。保健安全では、医療的ケアや給食及び食育などについて挙げられた。

これらのことを整理して、新年度の計画に反映させていきたいと考える。

(2) 学校評価（保護者評価）集計結果について

前年に比べ、横ばいかわずかであるが、数値が下がっている項目が多く見られる。その中で、項目 16 の事務職員は事務手続きの説明や相談に適切に応じている、項目 18 の寄宿舎は基本的な生活習慣や身辺処理が身に付く指導を行っている。項目 21 の寄宿舎職員は保護者の相談に適切に応じている。以上の 3 項目が前年の数値を上回った。

自由記述欄では、続けてほしいところとして、保護者からの相談や教師の指導について学校からの情報発信や学校と関係機関との連携、行事やスクールバスについて挙げられた。改善してほしいところとして、施設設備や進路指導、特性に応じた指導や情報発信、学習指導などが挙げられているが、特に施設設備に対する意見が多くあった。その他では、施設設備や学習指導、納入金や懇談について挙げられているが、特に納入金と懇談については、今後、十分な説明と同意が必要であると考えている。

5 情報提供

(1) コミュニティー・スクールについて

本校では、令和 4 年（2022 年）4 月からこの制度を開始するために準備を進めている。

改めて、コミュニティー・スクールとは、「学校運営協議会制度を導入した学校」であり、「地域住民等が学校運営に参画し、学校を応援する仕組みである。」と言われている。

「コミュニティー・スクール」導入のメリットについてである。

1 つ目は、校長や特定の教職員の異動があっても、学校運営協議会によって地域との組織的な連携・協働体制がそのまま継続できる「持続可能な仕組み」となる。2 つ目は、学校運営協議会や熟議を通して子供たちがどのような課題を抱えているのか、地域でどのような子供を育てていくのか、何を実現していくのかという「目標・ビジョンを共有」できる。3 つ目は、校長が作成する学校運営の「基本方針の承認」を通して、学校や地域、子供たちが抱える課題に対して、関係者が当事者意識をもち、「役割分担をして、連携・協働による取組」ができる。

これらのことを踏まえて、本校では、本校では、地域の小、中学校とは異なり、本校の児童生徒の実態や特性を踏まえた「テーマ型コミュニティー・スクール」を目指している。本校の目指すべき学校の姿として、「共に学び、共に育つ学校～信頼・協力・感動～」があり、①児童生徒が通いたいと思える学びのある学校 ②保護者が安心して通わせたいと思える開かれた学校 ③地域がともに育てたいと思える貢献する学校 ④教職員が働きたいと思える協働し、専門性を発揮できる学校 の 4 点を設定し学校経営を進めているところである。特に③地域がともに育てたいと思える貢献する学校を実現するためには、地域住民との「顔見知りの関係」「学校・地域への興味・関心と理解」「課題を共有する関係性」を深めていく取組を進める必要がある。さらには、卒業後も十勝管内の各市町村などまち作りの一翼を担う人材育成と地域への貢献活動をとおして、地域にある学校としての存在価値を高めていくことも重要な課題であると考えている。このような課題を地域と一体になって解決していく体制を整えていきたいと考えていることから、「コミュニティ」を校区（通学区域）としての「ローカルコミュニティ」という捉え方ではなく、課題のための考え方やビジョンを共有し、それぞれが役割を担い、協働できる人によって構成される「テーマ・コミュニティ」という考えのもと、「コミュニティー・スクール」の取組を進めていき

たいと考えている。

6 質 疑

(学校評議員)

コロナ禍ということで、できないことからスタートすると何もできない。いろんな形で工夫しながら取り組んできたことが報告を聞いて分かった。すごく学ぶところがあった。保護者は、今まで行っていたことを知っている方もたくさんいるので、ぜひ子どもに体験させたいという思いはすごくあると思うので、このような活動がどうしたらできるかというように考えることの大切さを感じた。

コロナ禍で大変な状況、当初は中止や取り止めという状況の中から、どうしたらできるのか、どうすればできるのかを考えるステップを踏んでいくと、報告を聞いて学校も頑張っているいろいろと取り組んでいることが分かった。評議員として新参者ではあるが、学校の報告を聞く限りではいろいろと工夫されて取り組んでいることが分かった。

学校評価に関して、保護者の評価は全校児童生徒の保護者が対象となっているのか。

(校 長)

そのとおりである。

(学校評議員)

毎年行っているとのことで、大事なことである。外部からの何らかの評価がないと工夫できなくなることも考えられる。教職員だけでなく保護者からの評価を得ていることを、とても良いこと、大切なことと感心して捉えている。

(副校長)

コミュニティスクールとしては、新たに進めていくところであり、北海道では令和5年には全ての学校で導入していくという方針がある。ほとんどの学校は、現在の学校評議員会の形を発展的につなげていく形になっている所が多い。具体的なところは、いろいろなことを踏まえて2月にお伝えする。

(学校評議員)

とても大事なことであり、素晴らしいことである。ぜひ進めてほしい。

(学校評議員)

保護者のアンケートの中で、障害特性に応じた進路指導と保護者とともに歩んでいくという項目を設けている部分がすごく勉強になった。

(学校評議員)

前回の記録であった、帯広盲学校・帯広聾学校との3校合同コミュニティスクールについては、実施しないという捉え方でよいか。

(副校長)

3校合同コミュニティー・スクールは行わないこととなった。7月に盲学校・聾学校の教頭と打合せを行い、コミュニティスクールは地域の方の力を借りながら制度の下に進めていくものではあるが、知的障害・視覚障害・聴覚障害という障害種が異なった中で共通のテーマというものがある、例えば地域の防災というような限定的なテーマになってしまうことがあった。盲学校・聾学校が教科で学習を進めている中で、本校は自立活動であったり総合的な学習の時間など、時間割に若干幅があるが、盲学校・聾学校はその幅がほとんどない状況であるので、その学校と一緒に組むこ

とはなかなか難しい部分がある。そのため、地域生活といった形で広く捉えて、テーマをそこに設定して単独で行っていくことが望ましい。それがコミュニティスクールの目的にも合致してくるという認識に立って今回進めているところである。

(学校評議員)

(3校合同コミュニティスクールは) かなり難しいことを感じていたので承知した。

7 評 議

(学校評議員)

帯広養護学校が開校して相当の年数になり、その間地域町内会においても世代交代が進んでいる。新たに町内に転居されてきた方々に帯広養護学校のことを理解していただくために、日頃の学習の様子写真を掲載するなど、町内会としても学校の様子を紹介する取組を考えている。

(校 長)

大変有り難い。私どもも、町内会活動に参加協力しながらともに進めて参りたい。

(学校評議員)

コロナ禍を踏まえつつ、町内会活動が復活した際には総会に諮って参りたい。

(学校評議員)

支援事業所に通われている児童の保護者が、コロナ禍の中において見学の受入がどうなのかを案じつつ、養護学校を見学したい意向を表したときに受け入れてくださることで、見て安心して養護学校を選択するようになってきた。今まで選択肢として迷っていた保護者も、養護学校の取組が分かったことと同時に、自分の子どもが養護学校に通うことになったときに複雑な想いを抱いていた保護者もおられたが、実際に見てみることの大切さを保護者に伝えることと同時に、支援事業所に通われている児童に対して、養護学校ではより丁寧な関わりをしていただけることを私たちがお話できるような知識を持つておく必要があることを改めて感じた。そのためにも、学校の取組の話聞く機会が大切であると捉えており、支援事業所でも必要ないろいろな話を聞かせていただけていることが有り難い。

(学校評議員)

これまで仕事をとおしていろいろな学校とつながり、お世話になりながらきていることに対して有り難いと思っている。学校評議員会に初参加をしたが、今後も協力して参りたい。

【校 長】

学校評価、保護者の評価に関しては、本校の教育活動を十分理解していただいていると捉える反面、もっと保護者に発信をしてもっと理解を得られるようにしていく必要があると考えている。評価の平均点が低い部分については、何が原因であるのかをきちんと考えながら進めていかなければならないと考えている。教職員の評価については、辛口に見える評価の所でも、実際に自分たちが学校運営に携わっている所で、何ができて何ができていないのかという所が、自分の中でもっと努力していかなければならない部分があると考えている。いずれにしても、この評価の結果を受けてそれぞれの教職員がどう考えどう取り組んでいくのが大事になり今後教職員に話をしながら進めていく必要があると考えている。

コミュニティ・スクールについては、来年度からコミュニティ・スクール（学校運営協議会）の方にシフトしていくが、母体となるのは現在の学校評議員会になる。コミュニティ・スクールを進めていくために、評議員の皆様には引き続き力添えをいただきたい。今後も本校への御意見をいただきながら進めて参りたいと考えている。

7 閉 会

上記のとおり会議を開催した。

令和3年（2021年）11月30日

北海道帯広養護学校長 山 本 貴 路